

文化財センター通信
【かざぐるま】

風車

1

平成 13 年 9 月 1 日発行

発行：財団法人 和歌山県文化財センター

〒 640 - 8268 和歌山県和歌山市広道 20 番地
Tel : 073 (433) 3843 Fax : 073 (425) 4595



主な内容

発刊の辞

北馬場遺跡の発掘調査

和歌山城跡の発掘調査

特集記事

一日高郡南部町・南部川村
徳蔵地区遺跡の発掘調査

南部荘園関連遺跡の試掘調査

文化財建造物保存修理の紹介

今年度の主な事業内容

news

お知らせとご案内

■ 和歌山城跡の発掘調査
防空壕遺物出土状況

発刊の辞

(財)和歌山県文化財センター 専務理事 岩橋 駿

連日の猛暑も去り、深まりゆく秋の気配が感じられる爽やかな季節となりました。

さて、当センターも今年で発足以来15年目を迎え、県内における遺跡の発掘調査事業と歴史的建造物の保存修理事業に職員一同がんばって取り組んでおります。しかしながら、県民の方々にとって、われわれの仕事にはなじみがうすく、あまり知られていないのが現状ではないでしょうか。

そこで、職員の間から情報通信誌を定期的に発刊して、広く県民のみな様にセンターの活動を知って

もらいたいという声があがりました。検討した結果、月1回程度を目標に刊行していくことにいたしました。こうして誕生したのが、文化財センター通信『風車(かざぐるま)』です。

和歌山県は黒潮洗う雄大な自然とともに、数多くの貴重な文化遺産が各所にのこされています。当センターでは、これからも一層の努力をしてこれらの文化財の保護と活用に専念してまいりたいと考えております。ささやかではありますが、『風車』によって、みなさまのお手元に文化の風をおとどけたいと思います。

北馬場遺跡の発掘調査

村田 弘

この調査は、京都・奈良と和歌山を結ぶ京奈和道路の建設に先立って実施しているもので、今回が二回目の発掘調査になります。遺跡は、橋本川左岸の小高い丘陵地に位置していて、古くから京・大阪を結ぶ紀見峠越えの重要交通路を眼下に望む要衝の地にあたっています。

調査では、少量ですが縄文時代中期の土器が出土しており、この地に5000年もの大昔から人々の営みがなされていたことがわかってきました。集落としては、その後何度か断絶するようですが、奈良時代にはいと活況を呈し始め、鎌倉時代の初め頃にもっとも賑わっていたようです。今回の調査でも鎌倉時代の建物跡を4棟検出することができました。これらの建物に伴なって数多くの土器が出土していますが、瓦器の椀や土師器の皿といった日常雑器のほか、中国から輸入された青磁の碗・白磁の皿といった当時としては貴重なものも出土しています。



■ 北馬場遺跡全景写真

和歌山城跡の発掘調査

藤井 幸司

この調査は、旧県立医科大学および附属病院の建物取り壊し工事に先立って実施したものです。調査

地は、和歌山城三の丸にあたり、紀州徳川家の上級家臣である安藤家や渡辺家の屋敷地として利用されていたことが絵図などから分かっていました。

調査では、実際に建物の礎石跡や井戸、石組溝、瓦と栗石を用いた雨落ち遺構など多数の遺構が発見され、屋敷内の状況の一端が明らかになりました。また、ゴミ穴からは泥面子や土人形といった遊戯具のほか、国産陶磁器、煙管などが出土しており、当時の上級家臣の生活をうかがい知ることができました。

また、調査に過程で、第二次世界大戦中に多数の犠牲者を出した和歌山大空襲の被災を受けた防空壕4基、和歌山高等小学校跡の一部を発見しました。これらの中から溶解したガラス瓶などのほか、防空壕の内からは、当時の生活用品が多数出土し、徐々に失われつつある戦争の凄惨さ、生々しさを現在に伝えてくれました。 (写真は巻頭)

南部荘園関連遺跡の試掘調査

黒石 哲夫

7月中旬から8月中旬にかけて、日高郡南部町・南部川村において、黒潮フルーツライン区画整備に伴う事前試掘調査を実施しました。調査地は八丁田圃と呼ばれている中世の水田区画の原型をとどめ



■ 縄文土器出土状況

た水田地帯で、現状は水田・畑地・造成地です。調査は2×2mの正方形の試掘穴（グリッド）を44地点に設定して実施しました。

南東部の水田地帯は古川の氾濫原や低湿地で、近世以降水田化されたと思われます。南東部丘陵裾では奈良時代から中世の遺物が多くみられ、東の段丘上には集落が存在した可能性があります。南部の小

丘陵周辺は東吉田Ⅰ遺跡の範囲内で、縄文時代の土坑を確認しました。縄文～弥生時代の遺構が存在する可能性があります。南西部の水田も、湿地状の地形を呈し、昔の川跡だと考えられる堆積を確認しました。中世以降に水田化されたと考えられます。南部の丘陵裾部の造成地はやや高い地形で縄文時代から中世の遺物包含層が存在します。縄文時代の土坑

特 集 記 事

日高郡南部町・南部川村徳蔵地区遺跡の発掘調査

土井 孝之

近畿自動車道の紀南延伸に伴い南部インターチェンジ（仮称）の範囲で、今年も発掘調査を行っています。平成7年度の試掘調査開始から、今年で最終の7年目になります。今までの調査でいろんな時代のいろんな生活の跡が発見されています。古い時代では、昨年の調査で世間を騒がした西日本初の縄文時代中期前半（約5000～4500年前）の集落跡とそれに伴う埋甕の発見があります。また、それらに伴って膨大な量の土器や石器が出土しています。他にも数々の重要な発見が相次いでいます。

今年、八町田圃と呼ばれる条里型地割の水田を潤す用水路の形成過程を探る調査や南部平野を網の目状に流れる縄文時代晩期（約2500年前）から弥生時代前期（約2300年前）の河川跡の調査を行っています。これらの調査の中でも、特に注目されているのが高田土居館と呼ばれる室町時代の領主の館跡の外郭と外堀の調査です。現在、館跡の3重の外堀に堆積した土砂を掘り進みながら、外堀よりも一段高い外郭で見つかった掘立柱建物跡や土坑・区画溝などとの関係を検討し、調査を進めています。もう少し調査が進むとより詳しいことが解明されるはずですが、皆さんのお手元に「風車」が届く頃に。



■ 徳蔵地区遺跡 堀発掘状況

を確認しました。このように、遺跡として周知され
ていない南東部の地点でも、奈良時代や中世の遺跡
が存在し、南部の微高地上には縄文時代の遺構が存
在していることが明らかになりました。今後の本格
調査が期待されます。

文化財建造物保存修理の紹介

鳴海 祥博

当センター文化財建造物課では、古い建築物
を再生するための、保存修理事業と設計監理業
務を行っています。現在は重要文化財粉河寺大
門（粉河町粉河）と、同旧中筋家住宅（和歌山
市和佐）の2カ所で解体修理工事を行っています。
これら歴史的建造物は、創建から百年以上
を経て、大規模な修理時期を迎えています。屋
根瓦を始め、梁や柱など部材を一つ一つ丁寧に
解体し、修理してまた組み上げてゆきます。

文化財建造物についての記事は、次号より掲
載します。保存修理工事現場からのレポートを
はじめ、修理工事を通して見ることが出来た様
々な事象をお伝えします。

今年度の主な事業内容

埋蔵文化財

北馬場遺跡第2次発掘調査（橋本市）
川辺遺跡発掘調査（和歌山市）
田屋遺跡発掘調査（和歌山市）
楠見遺跡発掘調査（和歌山市）
旧県立医大跡地〔和歌山城跡〕発掘調査（和歌山市）
徳蔵地区遺跡第5次発掘調査（南部町・南部川村）
徳蔵地区遺跡他発掘調査〔その1〕（南部町・南部川村）
徳蔵地区遺跡他発掘調査〔その2〕（南部町）
古川遺跡他発掘調査（南部町）
南部荘関連遺跡発掘等調査〔その1・2〕（南部町・南部川村）
西庄遺跡第4・5次出土遺物整理（和歌山市）

文化財建造物

重要文化財 粉河寺大門保存修理事業設計監理業務
重要文化財 旧中筋家住宅保存修理事業設計監理業務
重要文化財 丹生官省符神社保存修理設計監理業務
市指定文化財 光恩寺庫裏保存修理設計監理業務

n e w s

—南部荘遺跡調査指導委員会 第1回設立委員会開催—

平成13年8月1日、南部荘遺跡調査指導委員会の設立
委員会が和歌山市で開かれました。本年度は、南部町
・南部川村またがる南部荘の条里型地割をとどめた水
田地帯で高速道路や県道の建設、河川改修などにかか
わる大規模な発掘調査が多数予定されています。

当センターではこれらの調査のため、調査指導委員
会を組織しました。発掘調査の進行に合わせて、随時
指導委員会を開催し、各方面の専門家から指導・助言
をいただく予定です。

委員長 工楽善通氏 副委員長 小山靖憲氏

お知らせとご案内

全国各地の発掘調査報告書の公開と閲覧

当センターは、公益法人として、県内各地で埋蔵文化財の調査・研究をしております。最近でも南
部町において西日本で初めての大規模な縄文時代中期の集落などを調査し、現在も続行中です。

当センターでは、郷土史を勉強したい方、全国の有名な遺跡をより詳しく知りたい方などに発掘調
査の報告書を公開することにより、広く活用されることを願っております。

- ①閲覧方法 事前に閲覧を希望する日時を連絡して下さい。
(日時については、都合により変更をお願いする場合があります。)
- ②連絡及び閲覧場所 和歌山県文化財センター岩橋整理事務所 和歌山市岩橋1255
電話 073-471-6758
- ③閲覧日及び時間 閲覧日/月～金曜日(祝日、年末年始を除く)
時間/10:00～16:30(ただし、11:45～13:00は閉鎖)

シンボルマークの募集

“文化の風をおこす”という願いを込め、「風車」と命名しました。「風車」に似合うシンボルマー
クを募集中です。ぜひ奮ってご応募下さい。

応募先 〒640-8268 和歌山県和歌山市広道20番地

(財)和歌山県文化財センター 「シンボルマーク応募」係宛

(編集後記)“猛暑”から“残暑”へ、現場も一息です。台風が来ないといいなあ、と願う季節です。(す)